

## 中海自然再生協議会安倍彦名地域部会 第3回部会議事録

日 時 2007年11月10日 13:30～15:30  
場 所 米子ふれあいの里  
出席者 相崎・船越・福元・増田・大谷・井上・船崎・田守・美見・谷野・池田・  
松本・中村・國井・浦木・神谷・渡部・内藤

### 開会あいさつ

#### 今日の会議のテーマ

(イ) 前回の第3回中海自然再生協議会(10月27日)に話し合われた全体構想を、10月9日第6回の全体会議部会で話し合い細部を決めようとしている。全体構想の大目標「豊かな漁場、遊べるきれいな中海」は決まり、中目標の5つの柱は決まったが、具体的な目標は各部会の行動・計画方針とも重なるので、その重なり具合について今日は話し合いたい。

(ロ) 安倍・彦名部会としての具体的テーマを全体会議に提出しなくてはならないので、具体的テーマについて今日は話し合いたい。特にアイデア出しについて話し合う。

今後具体的テーマについて、どのようにまとめていくか、実施にいたる手法等は、まだまだ問題があるが、実施計画書作りの段階で討議することし、来年度以降に持ち越します。

### 議 事

※ 総括事項 - 自然再生協議会の組織のうち、全体構想検討専門部会の事業計画(案)と、各地域部会の関わりについて、同部会長の国井氏が総括事項の説明を行なう。続いて副部会長の増田氏よりこの事業計画(案)内容の変更等の説明を行ない、そのなかで各地域部会の具体的な事業計画の提出期

限を来る 11 月末までとすることを要請。

※ 全体構想に基づく各部会の事業計画及び取組み概要報告等。

A) 飯梨川地域部会

美見氏より部会の執行計画及活動報告

① 現在、赤江地域河川敷（飯梨川左岸）は、安来市の「トライアングル事業」支援等によりこの地域を抜開の上、覆砂を行ない水質調査の際の基地として、またイベント広場として利用している。

② 飯梨川河川敷兩岸を「実証的農場造り事業」として、長さ約 1.00 km、幅約 50m で計 5ha を実証区域として設定し、周辺の畜産農家組合を核として、この区域の牧草化を計る。

この事業はあくまでも環境に配慮した実証試験を行なうものである。

③ 飯梨川地域部会の基本方針である中海に流入する飯梨川の流域の水質保全対策を目的とするものであり、上流住民への啓発活動等も活発に行なう。

④ 飯梨川河口水域の保全整備を行なうことで、天井川独特の水質を利用した海浜公園の整備等により、誰でも水辺に安全に遊び、また二枚貝の収穫等ができる環境を整備し保全する。

これらの事業には必ず科学的知見が必要であるため、今後とも島根大学との連携が重要である。また事業資金については、島根県及び農林水産省の補助事業が受けられることを前提としています。

飯梨川流域部会として 11 月 18 日に集まり全体構想に提出するリクエスト表作りを計画しています。

(B) 崎津地域部会 — 渡部部会長代理より報告

① 崎津地域（水域）特有の自然地形残置の形状を活用したアマモ場の再生を計ります。その前段として中海干拓地の承水路を利用した人口的な「浮島」

ビオトープの施設。またこれを定期的に観察する水辺の施設等を整備し、自然環境修復のため、人が手助けをする水質浄化を目指し、塩湿地植物の植生等により、人工的なマングローブ及び浮漁礁等を地域住民や子供達とともに設置する共同作業を行ない、設置前の水質及び設置後の水質状況や生物の生息状況等科学的知見観察を行ないます。

- ② 江島地区、島根大学汽水センター分室地先沖合い付近に「二枚貝を用いた水質浄化実証施設」の設置を計画しています。

この生態学的環境修復の実証を行なうことで、水質浄化はもとより二枚貝の養殖事業発展の可能性を実証します。

またこれら(1.2)の事業は全て崎津地域の水域における「アマモ場」の再生を目的とするものです。

- ③ 弓ヶ浜半島にかねてあった「浜棉」や「サツマイモ」の復元を目指し、有機栽培農法により地先の海中から引き上げ、乾燥発酵させた海草等を用い、地域特産品として二次加工等を行なった付加価値の高い製品の開発を行ない、新規事業の可能性を探ることで若者が地元に着定できる環境を整備することを目的とします。

(C) 安倍彦名地域部会

当部会における「彦名湖岸自然公園構想」に対しフリー討議

はじめに … 相崎氏よりアドバイスがあり

他の部会との関係、全体構想との調整については地域がやりたい事があってスタートした経緯があるので、地域独自でした方が良いのか全体でした方が良いのか動かしながら検討してはどうか。

以下安倍彦名地域のワイズユースについて、フリー討議を行なう。

田守氏

中海宍道湖沿いに「道の駅」候補地が現在検討されている。主に環境学習の場を併用した施設計画です。

具体的テーマとなるが、道の駅は50%国交省の補助金で行っているので、「海の駅」構想を描けば水鳥公園も近いので学びの場と併設してはどうか。

谷野氏

海の駅構想とヨットハーバー構想と合わせてみてはどうか。

神谷氏

全国「海の駅」サミットが新潟県外5~6ヶ所を対象として計画されています。道の駅と対照的な水域を活用する構想といえます。

池田氏

安倍彦名のヘドロ処分地を全面的に浅場として造成したらどうか。

その根拠としては、

- ☆ 当地は纏まったスペースがある。
- ☆ 利用の用途が決まっていない。
- ☆ 管理者が国土交通省である。

そのためには承水路を利用した自然の堤防や潜堤を創出し、島根県側の景観を活用する。将来的には湊山公園から、この粟島神社まで「遊歩道」を整備して環境学習の場を創り、歴史、文化を生かした水島の湿性地の保護を計る事業を計画する。

船越氏

公園作りには市民の思い、省庁の今後の計画、経済的な視点が必要ではないか。

中村氏 — 安倍地区住民の意見として

現在、行政側の事業計画（案）に翻弄されており、住民意見の集約が出来ていない。

鳥取県西部地震の被災地であり、ヘドロ処分地について当初は市民公園等の計画があったが、現在は放置されている。また住民側としては、自然再生セ

ンターの活動が良く理解されていないのが現状である。

彦名中ノ海団地も出来て20年になり、行政との関係、地元のニーズも変わって来ている。一時ゴビウスのものとか、花を植えるとか、虫の防除、草の種の飛来で困った時もあったが、今400軒の人が住んでいるので、今月中に町内の打合せがあるので、住民の意見を聞いて処分地をいかに使ったらよいのか聞いてみます。

田守氏

崎津地域地先では、現在「ボート競技場」構想がある。万一これが実現の場合は「水鳥公園」の機能は消滅する。是非至急水の駅等に運動すべきである。

松本氏

水鳥公園友の会としては、この地域には何の構造物も作らないことを原則としています。池田氏提案の事業効果は？また渡部氏提案の事業についてその効果は？費用対効果は？また将来市民の財産として成り得るのか。これらの検証が必要と思う。

水鳥公園友の会の立場としては、池田さんの案に賛成です。水鳥としては周りに構築物はあまり望ましくない。

内藤氏

中海再生の先駆者として、水、陸域の有効活用については、市民が水に親しむことが最大のテーマと思います。

自分は灘町に住み合同汽船の船着場等、毎日きれいな海で遊んでいた。この経験からも中海には浅場が必要であり、安来の渚公園のような環境が望ましい。また、漁師の立場として「カワウ」の被害は少なからず中海のゴズの減少の一任にもなっていると思う。

「海の駅」構想としては、ヨットやボートパーキングの創造を始め“都市と地方の人の交流”により、魅力ある集客施設とし加茂川～中海～粟島神社等周辺クルージング等の具体的な検討も必要と思う。

現在、安来の島田小学校5年生では、水辺において水質や生き物の調査を行

っている。これに対し鳥取県側にはこのような事例はない。

神谷氏

水鳥公園の立場として客観的な評価を述べると、

☆ 現在水鳥公園の評価は周辺に宿泊施設が無いことで長期滞在が出来ない。

☆ 公園としての自然度が無い

☆ 浅場（子供達が遊べる水辺）空間が無い

これらの問題解消のため「内浜再生構想」が必要と思う。

各地域の事業計画が重複することなく、それぞれの特色を持つことを期待するものです。

船越氏

当地域部会参加の「キーワード」は、グリーンツーリズムのシステム等、遊び場、海の駅構想等、市民連動と行政の連携について経済活動の視点において「持続可能な社会は経済活動」といえます。

また環境保護の視点では、北海道美瑛町の視察の際、観光客が持ち込む細菌によって『地元野菜が全滅』というニュースもあり、……このような事業計画においては地元民との連携、共存が必要である。

以上キーワードを纏めると次記のとおりと思います。

- 1) 市民の思い
- 2) 省庁との連携
- 3) 経済活動

大谷氏

国土交通省の浅場造り現場視察の結果、1ヶ所あたり平均約5億円の事業と聞いたが、その費用対効果が現れていない …… 子供達の泳げる海の実現のためには、教育の立場から学校との話し合いが大切であり、中海の自然や生物の環境学習を進め、自然体験による感動を与える活動を目指すべきと思います。

ます。

また、漁業振興の観点では内藤氏の述べたように、野鳥が獲る魚の量を上回る漁業資源の復活を計るべきと思う。

田守氏

自然再生協議会の場に小中校の学校関係者の参加が無い。現在学校は危険防止のため屋外活動はしない。このような現状打開のため『水辺の学校』構想を学校、保護者、住民及び全ての関係者で協議し実現を計るべきと思う。

渡部氏

学校を動かすためには「親を動かす」がポイント。現在EM菌普及活動を通じて実感しているが、学校によって環境教育に対する温度差が大きい。

松本氏

学校、PTAを巻き込む活動は大変良いと思う。水鳥公園は学習の場としてまた、自然に触れる場として子供達を始め周辺住民の生涯学習の場として、利用を促進すべきと思う。

星川氏

穴道湖は芦の植生を再生する運動が盛んである。島根県はラムサール条約のワイズユースとしての活動がうまく行っているように思う。地域の参加は女性・奥さん方の参加がキーポイントとなる。自然再生協議会に婦人の参加が是非必要と思う。女性の立場からの意見の集約が必要。

福本氏

鳥取県側の水際は直立護岸となっており、島根県側のように“渚”がない。今後の事業において地形変更の必要があると思う。国の調査等と相乗りすべきではないか。

船越氏 — 部会活動の絞込みについて、

「環境学習の場」の実践は？ 「事業化の手順」の方法は？

各部会の「具体的な目標」のカードの提出に際し、予め事業実現のフローを記入する必要がある。

国井氏

今迄の討論の感想においては、討論内容が自然再生ではなく、むしろ「まちづくり」の討論と感じている … が、他の協議会では行政によって始めから具体案がある。しかし本協議会は始めから民意の集約によって成り立っている。従って、今後の事業計画は地域再生の中での「自然再生」として具体的に事業計画を絞り込むことが必要と思います。

相崎氏

「具体的な目標」設定案の提出については、大目標～再生への柱～具体的目標等、全体構想計画に沿っては、整合性を要します。

船越氏

多少そのきらいはある。何しろ町に隣接した中海なので人との生活を無視できない。

安倍彦名地域部会における「具体的な目標」設定案の提出については、地域住民との関わりが最重要課題であり、住民の立場での自然再生、水域、陸域との関わりが大切であり、設定案の提出に反映されなければならない。

池田氏

人と水とのふれあいは「水辺」がポイント。

生き物としても同様であり、現在国土交通省による浅場づくりは、人工的で良好とはいえない。従って人がスムーズに水辺に入れるよう、研究課題は多いと思う。また、彦名地域の住民の生活はこのヘドロ処理場のため不利益を受けています。従ってこれを改善することで生活環境は良くなると思う。

浦木氏

自然再生協議会の議論は環境修復がテーマである。「よみがえれ中海」（昔の時代に）… この実証のためには、住民の参加と意見が大切であることは言うまでもない。貧酸素無酸素水塊を何とかしないと再生はおぼつかない。浅



場作り、波の浄化能力等で再生するモデルを作り、全国へそして世界へ情報発信すべきである。

船越氏

この構想は一度も住民に示していない。近く中村氏に段取りしていただければ相崎先生と説明に行きたい。

中村氏

とりあえず処分場をどうしたいのか意見を聞く。

船越氏

最後になりますが、アンケート用紙（ホームページからダウンロードできます）にどんな再生の案があるのか記入し私の所か再生センター徳岡氏の所へFAX・メールして下さい。

船越氏

次回部会開催準備

事業計画を「具体的な目標」設定票に記入し、これを集約したいと思います。この期限までに記入作業の協力を依頼します。

谷野氏（情報として）

長崎県出張に際し得た情報 … 今期諫早湾の二枚貝(アサリ、シジミ、カキ、その他)全滅のニュース。

同じ閉鎖性海域において、他山の石ではない。また中海の漁業、観光資源開発において、環境に配慮した「海洋牧場」計画の提案がある。

以上、議事を終了し、この協議の中で改めて住民パワーの活用をもって自然再生の流れを創造することを実証した。

以上